



島教協

《 子どもたちのより良き成長のために 》  
情 報http://  
www.kyougikai.orgE-mail  
office@kyougikai.org

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 吉田 修 編集人 岡 利行 No.719

## 年頭所感

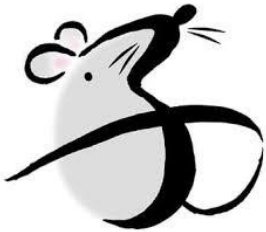
会長 吉田 修

明けましておめでとうございます。島教協会員の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと拝察申し上げます。

昨年は全国の同士のみなさんをお迎えして、十年ぶりに再び「教育シンポジウム島根」を開催することができました。「令和の時代の縁づくり」学校・家庭・地域の連携の在り方「このテーマに基づいて各パネリストのみなさんが様々な視点・観点から示唆に富んだお話をされ、大変深まった議論となりました。議論を聞き私は、何をやるにしてもそれが子どもたちのためになるかどうか、常にそこに立ち返って考えることが大切だと改めて感じることができました。このシンポジウムを無事開催することができたのも、会員のみなさんのご協力のおかげです。本当にありがとうございました。

また、昨年はラグビーワールドカップで大いに盛り上がりましたが、今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。ラグビー以上の盛り上がり予想され、私も大いに期待しているところです。どんなドラマが繰り広げられるのか、日本選手、日本チームがどれだけ活躍するのか、今から楽しみです。

私の勤務校の忘年会の二次会、みんなでゆずの「栄光の架け橋」を熱唱しました。その歌詞の中に「もう駄目だと全てが嫌になって逃げ出そうとした時も、想い出せばこうしてたくさんの支えの中で歩いて来た」という一節があります。オリンピック・パラリンピックという夢の舞台に立つことができた選手は誰も、恵まれた才能があるだけではなく、想像を絶する努力を重ねて



いるのでしようが、それでも不安に押し潰されそうになつたときに、力強く、そして優しく背中を押してくれるのは人とのつながりなのだろうと思います。そのようなドラマの数々をぜひ子どもたちに伝えていき、多くの人とつながりつながらることで、一人では乗り越えられないことも乗り越えていくことができるということをお教えることも大切だと思います。正に連携の強さです。シンポジウムでも、学校・家庭・地域、さらには行政とも連携していくことの重要性や具体的な方法が語られました。

そして教職員同士の連携も重要です。それが島教協の存在意義です。いくら現場で、「先生の数が足りない！」「勤務条件を改善してほしい！」と思っても、それを定められた方法で要望しないかぎり、グチで終わってしまうのです。今の教育現場は問題山積ですし、新たに少人数学級編制の見直しなども検討されています。このような時だからこそ、島教協は自らの資質を高め、子どもたちのために本来に必要な条件整備を要望してきた、これまでの姿勢と方針を変える事なく、活動を推進していかなければならないと思います。

教育には、一瞬でカボチャを馬車に変えるような魔法の杖はありません。日々積み重ねた一つ一つの実践が実を結ぶのですから、とにかく目の前にある課題一つ一つに真摯に取り組んでいくより他に方法はないのでしよう。皆様にとって今年一年が幸多き年となることを心から祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。



## 「少人数学級編制及び小学校スクールサポート事業・

子ども読書活動推進事業（学校司書等配置事業）の見直し」への島教協の対応について

事務局長 岡 利行

令和元年11月19日島根県教育委員会に今年度の要望活動を行った次の週、新聞記事で2つの事業の見直し案が本格的に県議会に出されることを知りました。2つの事業は学校現場にとってありがたいことであり、継続を要望したところでしたので、この新聞記事には衝撃を受けました。

ほどなく島根県教育委員会から島教協へ「見直し案」の具体的な説明がありました。

「島根創生計画」を推進するためには予算確保と健全な財政の維持という点から2つの事業の見直しが必要であること、しかし少人数学級編制の評価が高いため、影響を最小限度にすること、あくまでこの見直し案は「たたき台」であり、関係各方面からの意見を募り検討していくことなどが述べられました。

この「たたき台」は、大まかには次のような内容となっています。

### 少人数学級編制及び小学校スクールサポート事業

- ・令和3年度と4年度の2ヶ年で見直しを実施し、少人数学級編制基準の人数を引き上げ、教員100人の減員を図る。
  - ・影響を最小限にするため、2年限定で減員の多い学校には翌年度1年間だけ加配教員を配置する考えである。
- また、令和3年度以降、個別課題対応として加配教員を配置する考えである。

### 子ども読書活動推進事業（学校司書等配置事業）

- ・学校司書配置を対象にした交付金制度を見直し、新規の補助事業として再構築する。
- ・「学校図書館を活用した児童生徒一人一人に寄り添う業務」を島根型のモデルとして促進し、従来の学校司書を「学びのサポーター」として配置し、養成研修を実施して、児童生徒の実態を共有し、個に応じた支援を行う。

島教協としては、2つの事業の見直しには問題点が多数あり、その問題点が解消されるまでは現行の制度を継続していただくよう要望したいと考えました。

例えば少人数学級編制の見直しは、学校から教員が減り子どもたちにきめ細やかな指導・支援が行えないこと、教員の多忙化が増長される心配があること、多人数のために教室に机やストープが入らなくなる事態が予想されること、保護者や児童生徒の不安が高まること、加配の基準が明確でないこと、中学校で免許外科目の担当が増える心配があること等の問題点があります。また子ども読書活動推進事業の見直しは、学校司書の負担の増加や学びのサポーターの確保に不安があること等の問題点があります。

12月13日には吉田会長が島根県教育委員会に申し入れに行きました。

申し入れを行った内容は次のとおりです。

少人数学級編制及び小学校スクールサポート事業・子ども読書活動推進事業（学校司書等配置事業）の見直しについては慎重に行い、見直しに伴う問題点が解消できるまでは継続すること

また事務局として、出雲地区選出の島根県議会議員5名にも協力お願いに行きました。さらに島根県議会の自民党会派の議員（21名）にも要望書を送付し、協力を求めたところです。

2月の島根県議会でも本格的に議論されるとの情報が入っていますが、「子どもたちのより良い成長のために」島教協としては今後も現行制度の維持を継続して要望していこうと考えています。